

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、「Creative Ageing ずっとび」の認知症の方を対象にした取り組みをご紹介します。

The Museum offers Art and Communication Project designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks.

This time we look at "Creative Ageing Zuttobi," a project for older adults including people with dementia.

認知症当事者とその家族を対象とした展覧会鑑賞プログラム

An exhibition-viewing program for people with dementia and their families

Creative Ageing **ずっとび**

現在、高齢者の4人に1人が認知症の当事者またはその傾向があるとされています。「Creative Ageing ずっとび」は医療・福祉従事者と協働し、認知症で美術館に行きづらいつ感じている人も、安心して作品鑑賞や対話が楽しめる機会を作っています。

Today, 1 in 4 older adults suffer from dementia or are in the preliminary stages. In collaboration with medical and welfare personnel, "Creative Ageing Zuttobi" offers people whose dementia makes museum visits difficult enjoyable opportunities to see artworks safely.

「Creative Ageing ずっとび」とは?

What is "Creative Ageing Zuttobi"?

子どもから高齢者まで、歳を重ねても「ずっと」アートや美術館が身近にある社会を目指して、超高齢社会に対応する活動を行っています。シニアが美術館でアートと人と出会い、ウェルビーイングな場が生まれるように、参加型のプログラムを積極的に作っています。

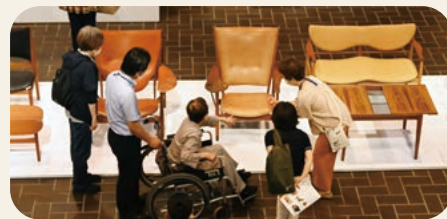
To create a society where art and museums are "always" accessible to everyone from children to the elderly, even as they age, the Museum is working to meet the needs of super-aging society. We are actively creating participatory programs that enable older adults to enjoy art and people at the art museum, and cultivate a sense of well-being.

認知症の人とその家族が、アート・コミュニケーターと、展覧会を鑑賞し、対話する。

People with dementia and their families see the art exhibition with art communicators and enjoy talking with them.

「Creative Ageing ずっとび」では、すべての人に開かれた「アートへの入口」を目指す当館のミッションを体現する取り組みとして、年齢を重ねると誰もが当事者になり得ると言われている認知症の方を対象にしたプログラムを実施しています。活動を始めた2021年度はコロナ禍のためオンラインでの作品鑑賞を企画しましたが、2022年度は美術館でのリアルな作品鑑賞や対話を楽しめる機会をつくることができました。

実際に認知症当事者とその家族の方が来館して参加できるプログラムを検討するにあたり、当館が立地する台東区の病院や地域包括支援センターの協力を得て、介護、医療、福祉の



「オレンジカフェ とびらーと楽しむ美術館めぐりーデンマーク家具の世界」の様子
東京都美術館「フィン・ユールとデンマークの椅子」(2022年)

Scene of "Orange Cafe Museum Tour with 'Tobira' - The World of Danish Furniture"
"Finn Juhl and Danish Chairs," Tokyo Metropolitan Art Museum (2022)

専門スタッフと一緒に、2つの企画を考えました。

一つ目は2022年9月6日に実施した「オレンジカフェ とびらーと楽しむ美術館めぐりーデンマーク家具の世界」です。そのタイトルの通り、参加者と、とびらプロジェクト(※)で活動するアート・コミュニケーター(愛称:とびらー)が1対1のペアになり、美術館の散歩を楽しむという内容です。企画展「フィン・ユールとデンマークの椅子」(2022年7月23日~10月9日)の展示室を会場に、北欧・デンマークのデザイナー、フィン・ユールの作品とデンマーク家具を鑑賞しました。参加者は、家具の色や形、椅子の手すりの曲線に着目したり、使いやすさを想像したりしながら、作品の気になったポイントを自由に話してくれました。どのペアも話が盛り上がり、自宅を使っている家具のことや、子どもや孫の話題にまで、会話はどんどん広がりました。

※東京都美術館と東京藝術大学と市民とが協働し、美術館を拠点にアートを紹介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクト <https://tobira-project.info/>

二つ目の企画は2022年11月28日に実施した「ずっとび鑑賞会ー展覧会 岡本太郎」です。参加者はオレンジカフェの時と同じように、とびらーと一緒に「展覧会 岡本太郎」(2022年10月18日~12月28日)の展示室をゆっくり散歩しました。ずっとび鑑賞会ではそれに加えて、とびらーを含めて5~6人のグループで一つの作品を囲んで座り、じっくり作品を鑑賞しました。そして、作品から感じたことや、思い出したことを、相互に話し合いました。参加者の多くは、岡本太郎と同じ時代を生きてきたこともあり、作品を見ていると、次第に昔の思い出がよみがえってくるようでした。例えば代表作の一つ「重工業」を前に、参加者の一人は時間の制限もなく働かされていた記憶を話し、また別の一人は、終戦直後に大八車を押し、三日三晩かけて茨城から東京に戻った思い出を語りました。

二つの企画では、認知症当事者とその家族



「ずっとび鑑賞会ー展覧会 岡本太郎」の様子
岡本太郎《重工業》1949年 川崎市岡本太郎美術館蔵
東京都美術館「展覧会 岡本太郎」(2022年)

Scene of "Zuttobi Art Appreciation Program - Okamoto Taro: A Retrospective"
Taro Okamoto, *Heavy Industry*, 1949,
Collection of Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki
"Okamoto Taro: A Retrospective,"
Tokyo Metropolitan Art Museum (2022)

が、とびらーと一緒に、作品を介して日常とは少し違った時間を過ごし、新しい人との出会いや交流を楽しみました。今後もこのような機会を増やしていきたいと考えています。

(東京都美術館 学芸員 藤岡勇人)

In 2022 "Creative Ageing Zuttobi" held two programs, including a program enabling people with dementia and their families to enjoy art viewing and discussion at the Museum.

The first was the "Orange Cafe Museum Tour with 'Tobira' - The World of Danish Furniture" held in September 2022. Museum-based citizen art communicators ("Tobira") paired up with participants for a walk through the Thematic Exhibition, "Finn Juhl and Danish Chairs" (Jul 23 - Oct 9, 2022). The second was "Zuttobi Art Appreciation Program - Okamoto Taro: A Retrospective" held in November 2022. After touring the galleries of "Okamoto Taro: A Retrospective" (Oct 18 - Dec 28, 2022), participants sat around an artwork in groups of 5 or 6 and discussed what they felt from it. Through their art encounters in the two programs, people with dementia and their families had experiences refreshingly different from their day-to-day activities, and could meet and interact with new people. We would like to increase such opportunities in the future. (FUJIOKA Hayato, Curator, Learning and Public Projects)

活動の詳細はコチラ



「オレンジカフェ とびらーと楽しむ美術館めぐりーデンマーク家具の世界」活動ブログ
"Orange Cafe Museum Tour with 'Tobira' - The World of Danish Furniture" Activity Blog

「ずっとび鑑賞会ー展覧会 岡本太郎」活動ブログ



"Zuttobi Art Appreciation Program - Okamoto Taro: A Retrospective"



『Creative Ageing ずっとび 2021.4→2023.3 活動報告書』
Creative Ageing ZUTTOBI Report,
April 2021-March 2023